



* 全機性とは

いのちとは何か

*いのちってなんだろう



人間の問

*分析してみよう



還元主義

細かく分析すればいつか
分かるにちがいない。

*全体を見なくちゃだめだよ

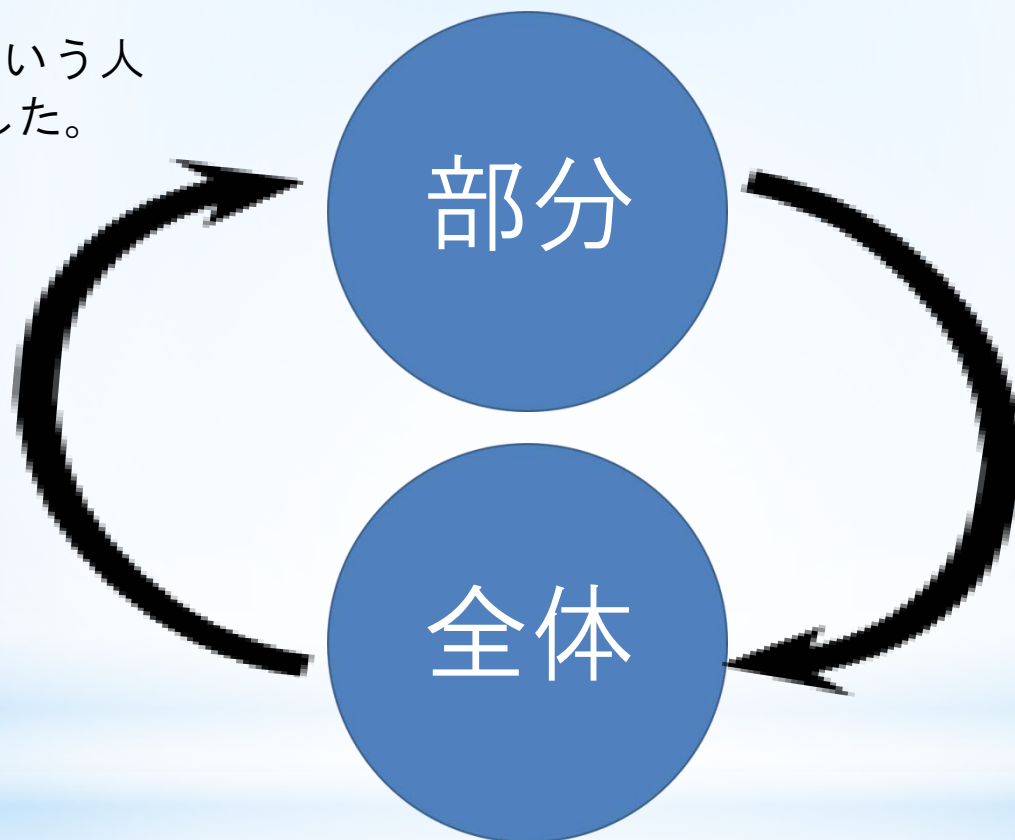


全体論

でも、なんかあいまいだなあ!

* 両方必要なんじゃないか

Drieschtという人が
考えました。

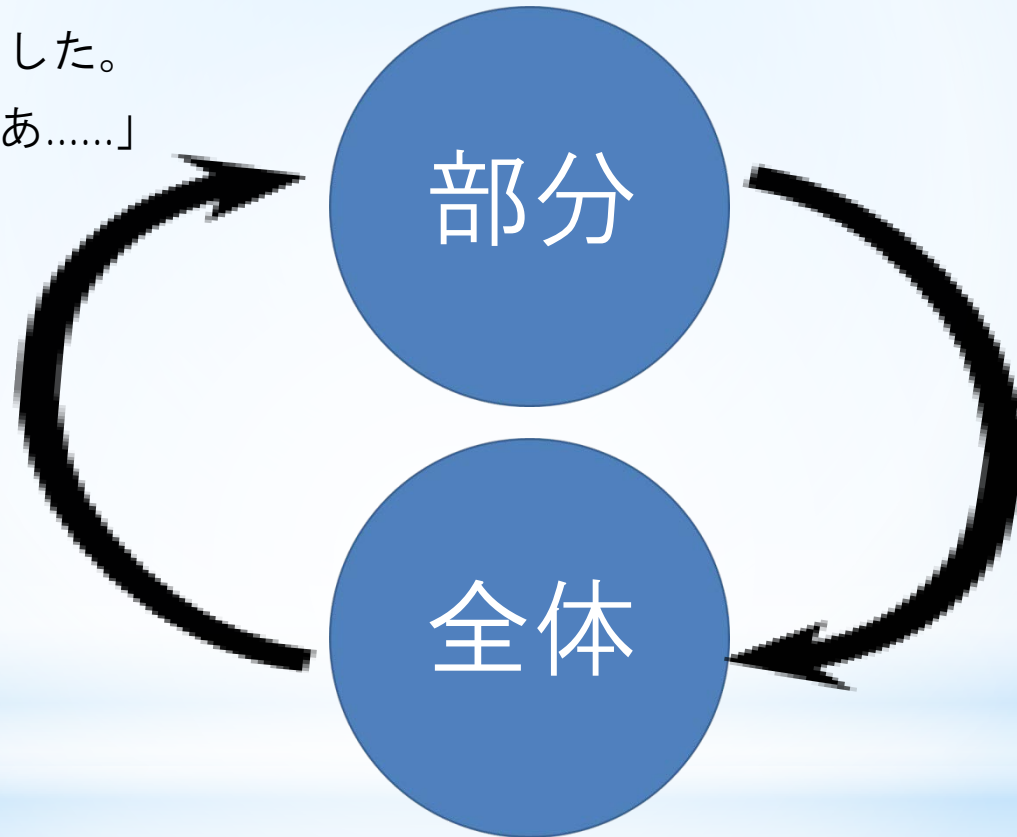


そして、Ganzheitbezogenheit
(部分は全体に関すること)と、呼びました。

*でも、なんか違うんだなあ...!!

橋田邦彦が考えました。

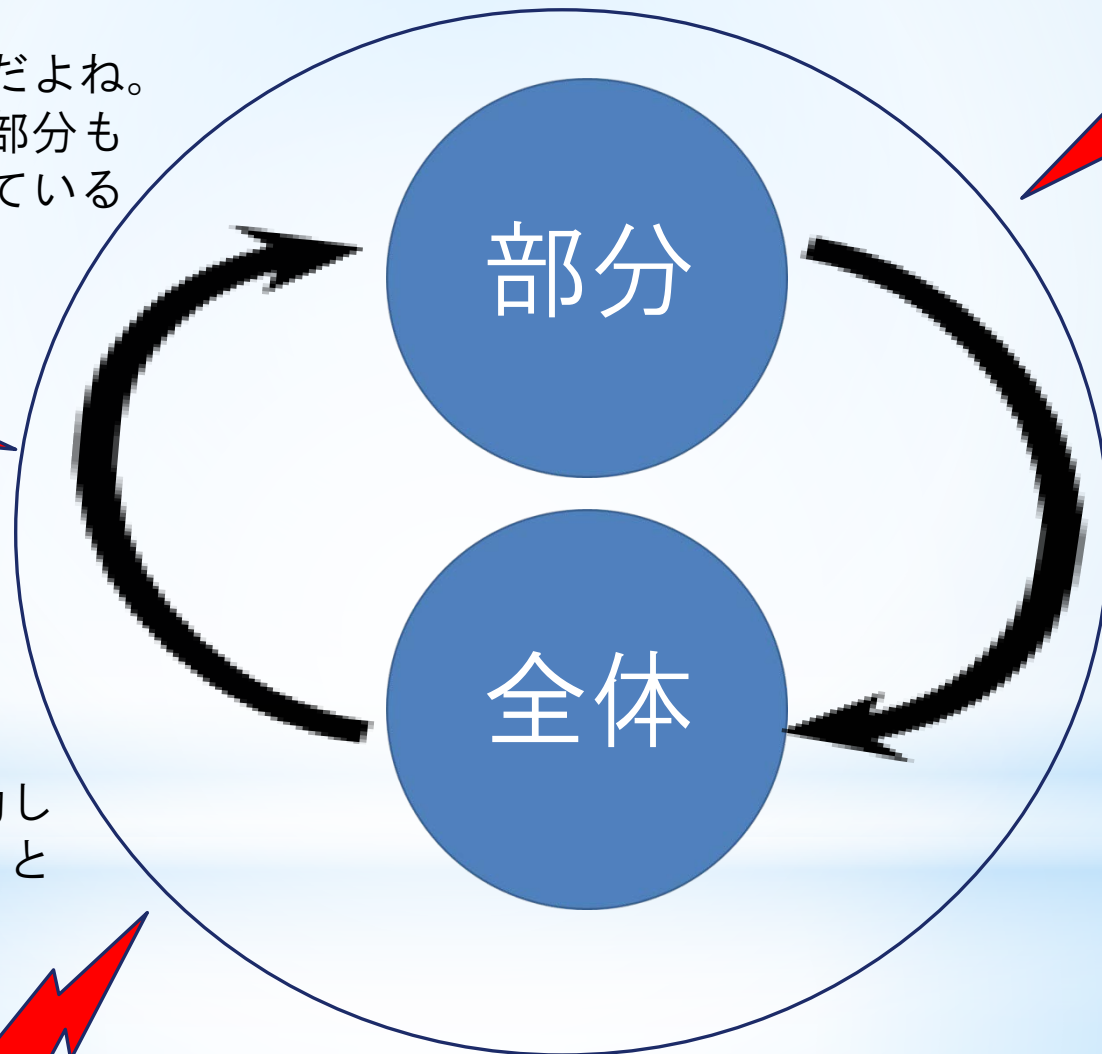
「何が違うのかなあ.....」



「環境変化に応じて、全体が変化し続けていることを考えなくていいのかなあ。」

* そうだ! 全機性だ!

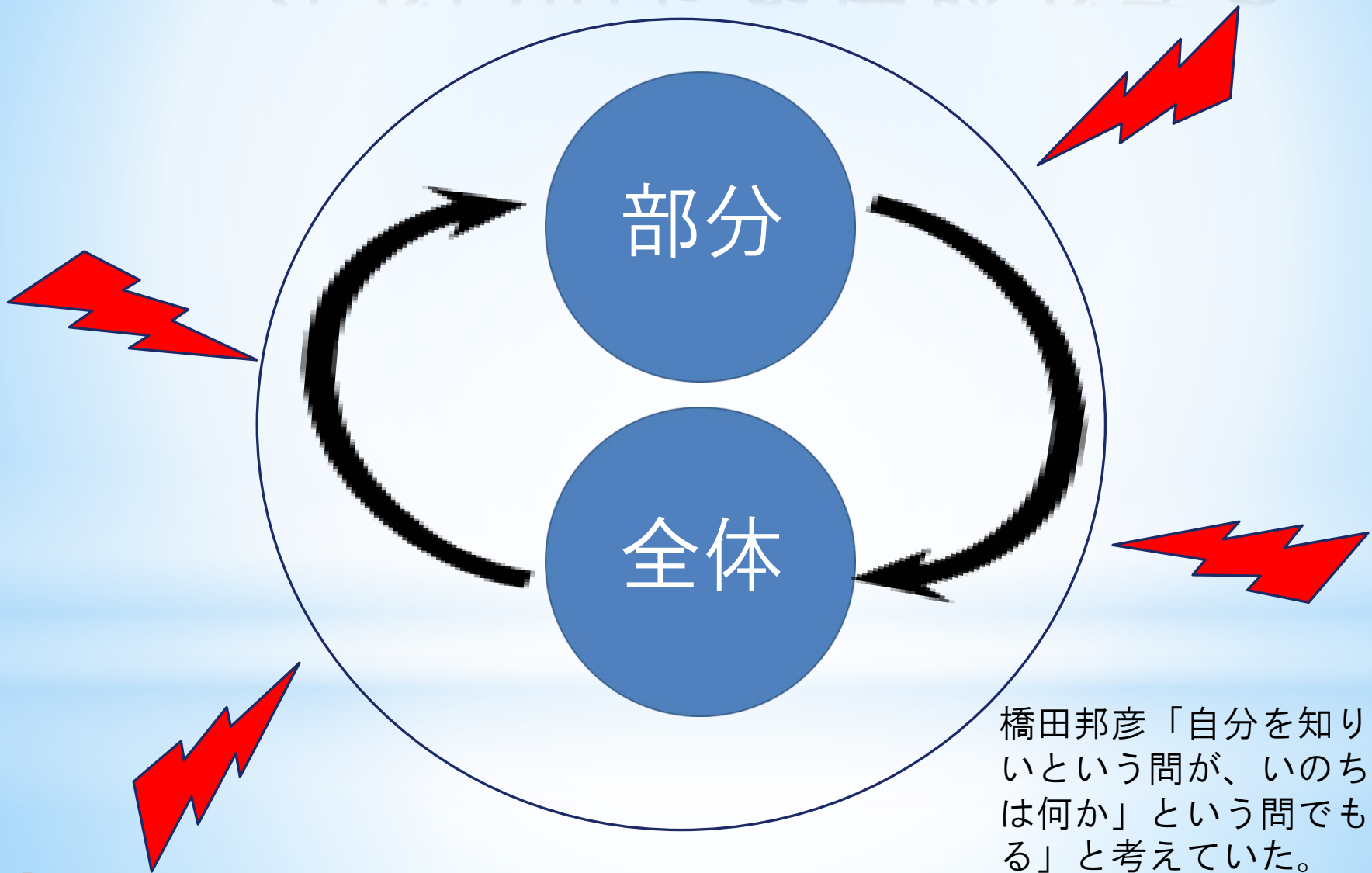
いのちは環境と一体だよな。
環境も個体も個体の部分も
連動して変化し続けている
よね。



全ての動きが、連動し
ているから「全機」と
いうんだ。

いのちって、全機の現れなんだ。

* これでいのちを把握できる



橋田邦彦「自分を知りたいという問が、いのちとは何か」という問でもある」と考えていた。

* 橋田邦彦は道元から いのちを把握することを学んだ

キーワード

全機

体験

行

仏性(真実の自己)

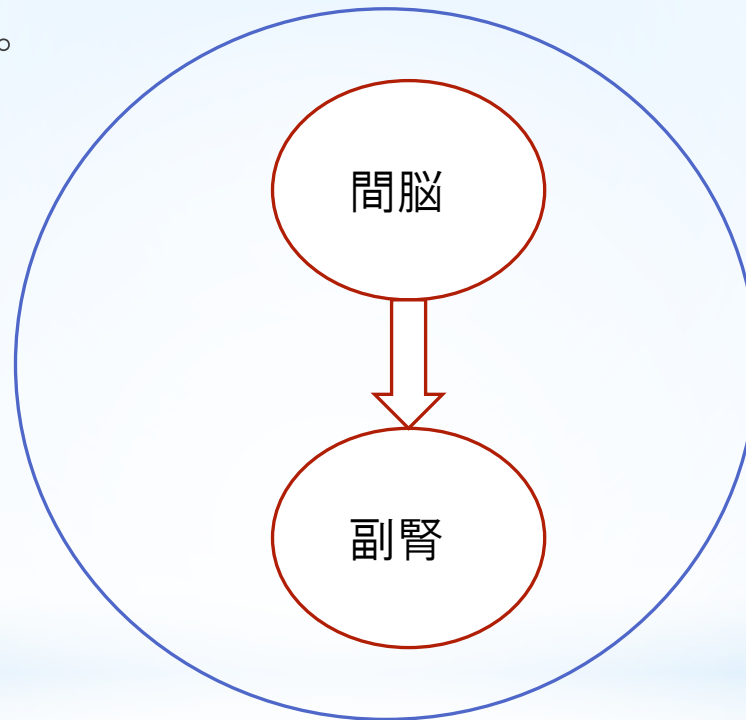


このことを生理学に応用すると

* 例えばストレス学説があるね

杉靖三郎がいました。

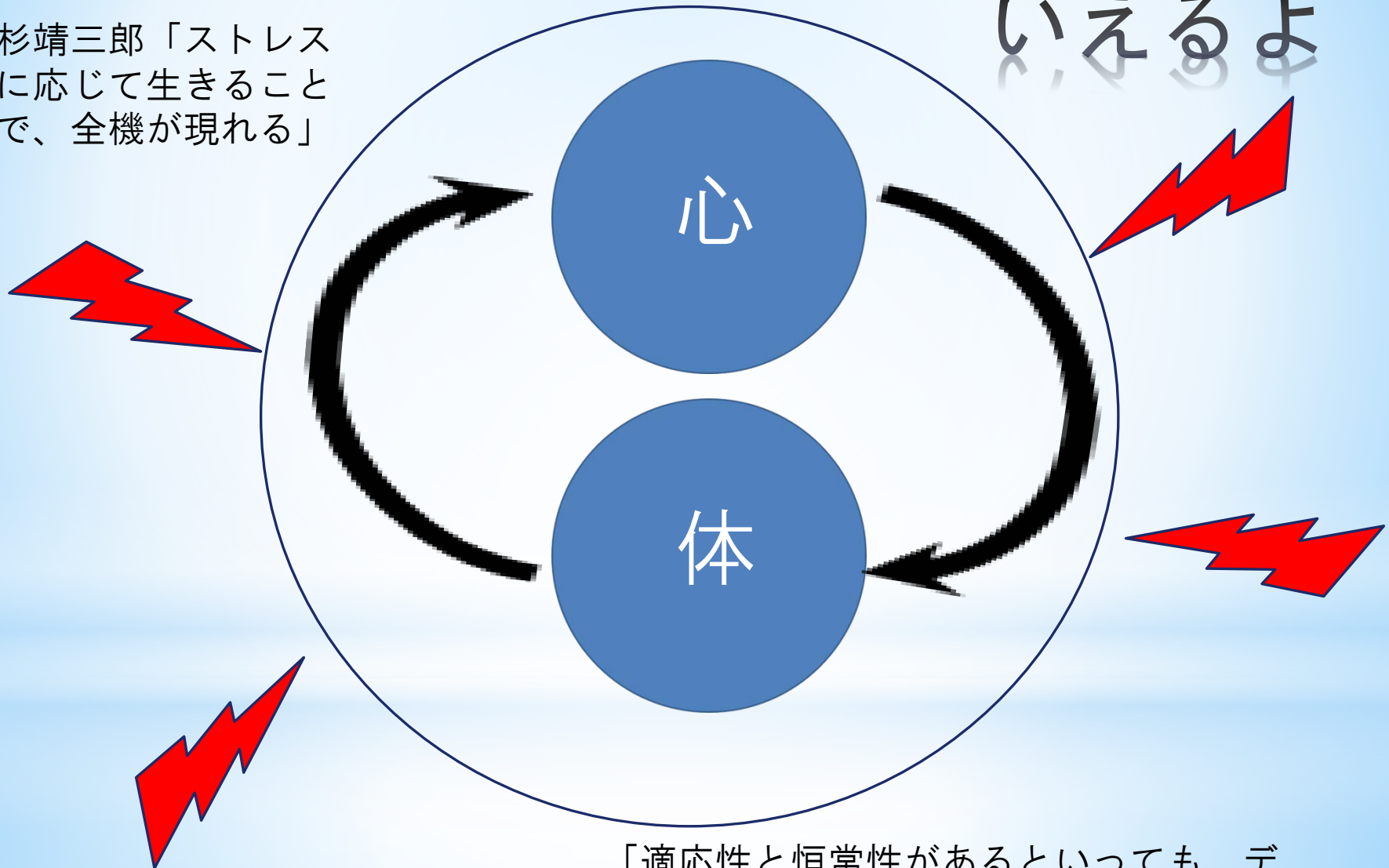
「セリエさんがいったことってとても重要じゃないか。」



心と体の働き合いが、健康をつくる。
それには、間脳と副腎の働きが軸になるよね。

* 全機性って心と体の統合ともいえるよ

杉靖三郎「ストレスに応じて生きること
で、全機が現れる」



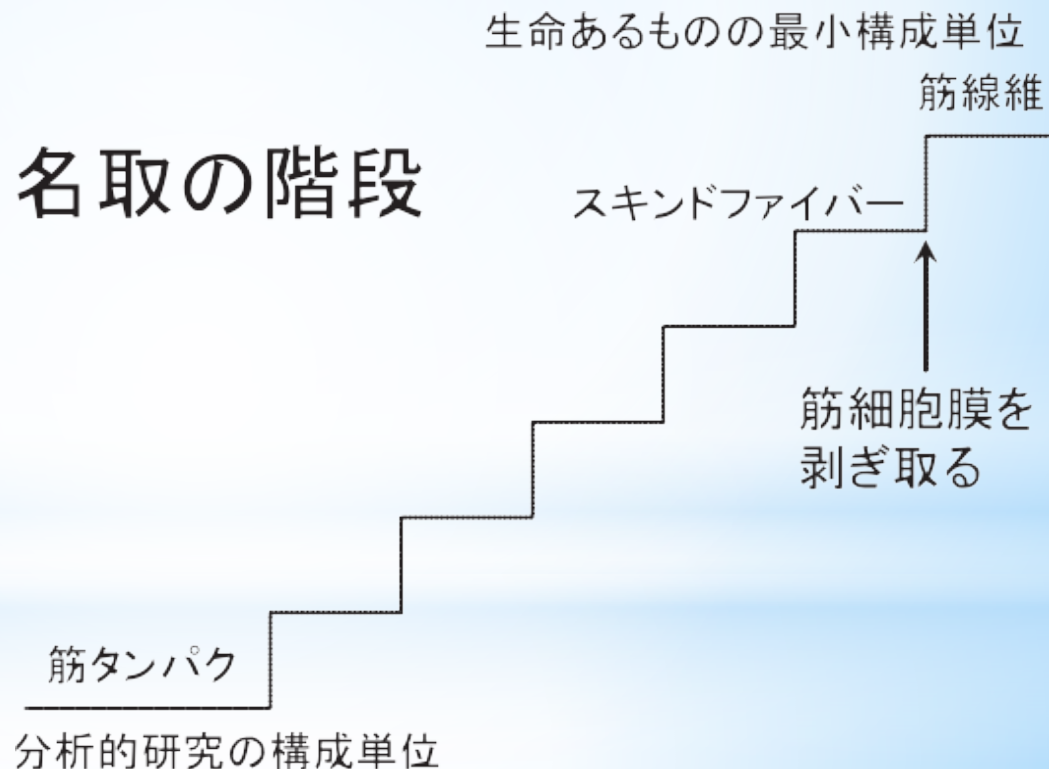
「適応性と恒常性があるといっても、デリケートで変化の幅が狭い。」

* 「名取の階段」という提案

名取禮二は、
「命を本当に理解するのは、とてつもなく大変だ。やみくもに研究するのではなくて、研究者は
どういう方向へ向かって研究する
のか方向を定めたらどうだろう」といいました。

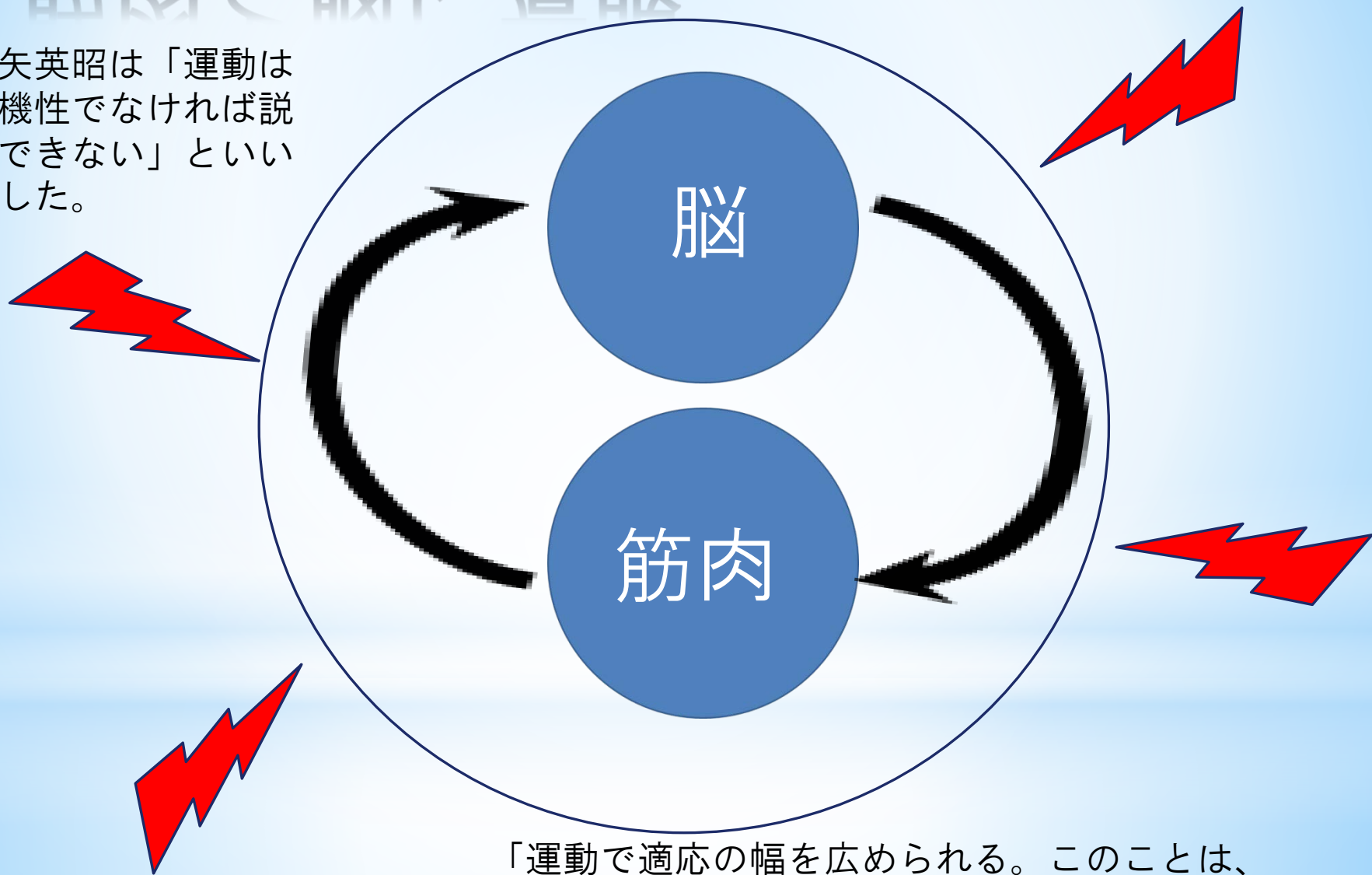
「だから、細かいことを研究する学者と大きなことを研究する学者と、階段の真ん中で握手することを目指そう。」と提案しました。

名取の階段



* 筋肉と脳に着眼

征矢英昭は「運動は全機性でなければ説明できない」といいました。



「運動で適応の幅を広められる。このことは、いのちの全機性を追求すると説明できる」

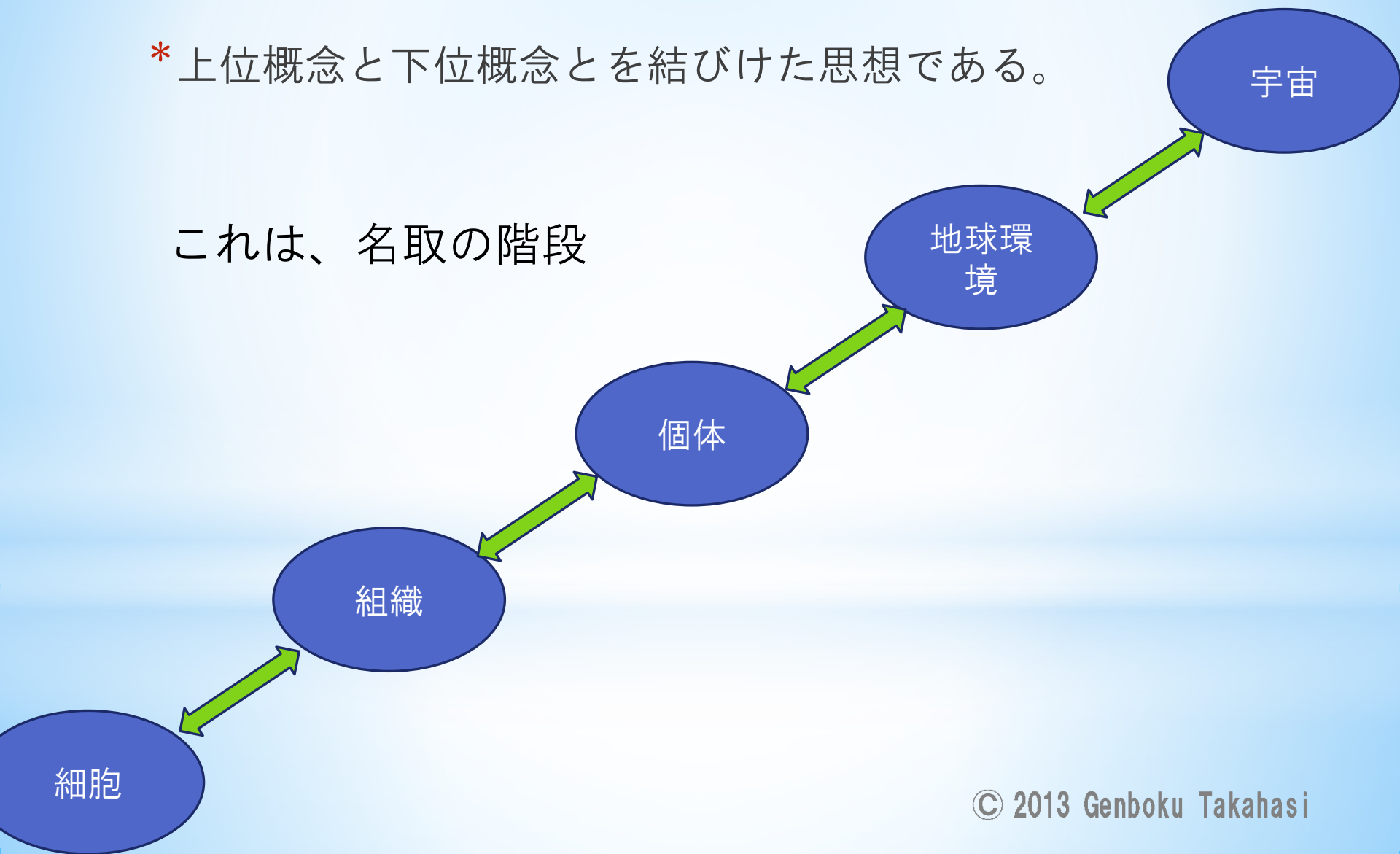
* 全機性の思想は 未来に広がる

- * 全機性の考え方は、生理学の研究にまだまだ応用できる。
- * 橋田邦彦は、人間と社会を常に意識して研究していた。
- * 全機性という考え方は、われわれの社会活動の在り方の指針としても、役に立つ。
- * サイエンスの人も体育の人もみんなと一緒に、日本の将来を考えるときに、共通の哲学的基盤として、全機性という考え方が役立つのではないか。

* 全機性の特徴

* 上位概念と下位概念とを結びけた思想である。

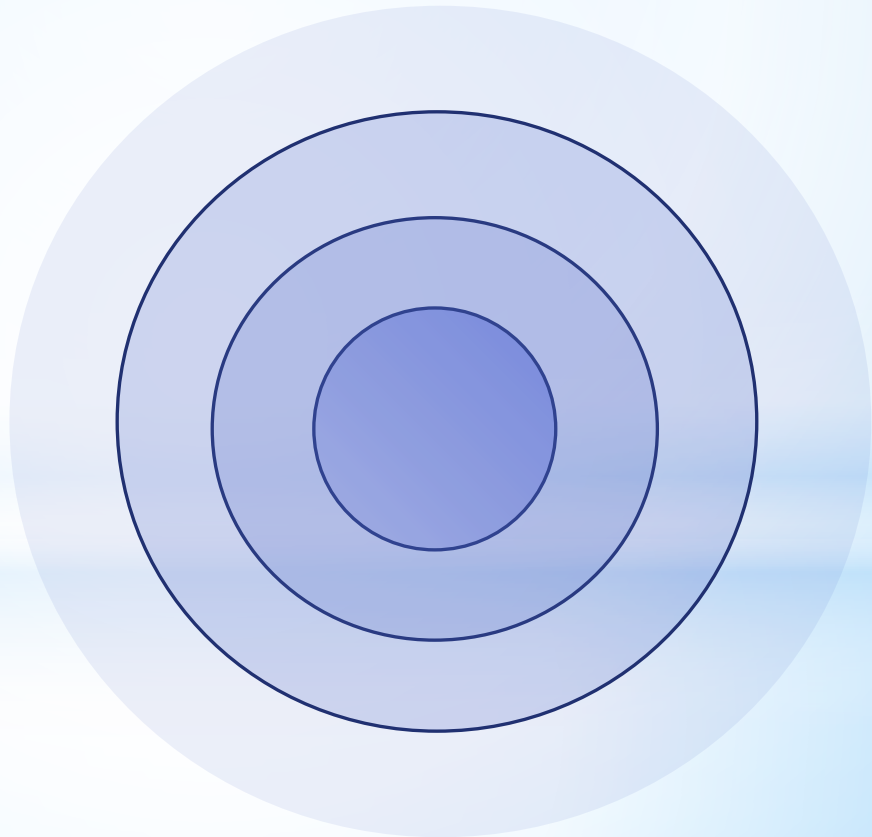
これは、名取の階段



* 全機性の特徴2

* 小さな概念を大きな概念で包む考え方もできる。

ストレス
運動
スポーツ
エコロジー



* 全機性の特徴3

- * ネットワークによるシステムと考えられる。
- * ネットワークとは、生命現象。

社会のネットワーク
個体のネットワーク
組織のネットワーク
細胞のネットワーク
細胞内組織のネットワーク
分子のネットワーク

